

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



マツの芽生え。すくすくと丈夫に育ってほしい

Contents

- 新拠点建設にむけて・会員総会の報告 P 2
- 中国の環境問題と日中の協力 P 3
- 第2回運営懇談会開催のお知らせ P 5
- 春のツアー報告その2 P 6

2010.7

134

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

新拠点建設にむけて

緊急！ 寄付募集

高見 邦雄 (GEN 事務局長)

南郊区平旺郷にあった私たちの拠点「環境林センター」と、この4月でお別れしました。緑色地球ネットワーク大同事務所との奮闘で、新しく、大同県周土庄鎮二十里鋪村の近くに23haの土地を大同市から提供されることになりました。

交通の便利なところで、白登苗圃や実験果樹園「かけはしの森」とも近く、それらとの一体的な運営が可能になります。漢の高祖劉邦が匈奴の冒頓単于に7日7晩包囲され、絶体絶命の危機を危うく逃れた歴史上の古戦場・白登山(現馬鋪山)のふもとです。

大同における緑化協力を今後どのように展開するか、新しい土地の利用は深くかかわっています。専門家の意見をきき、また世話人会や運営懇談会などでもしっかり相談し、現地とも密接に意見交換しながら、方針を立てたい

と思います。いまのところ、樹木見本園や葉草園、さまざまな実験や研修をおこなう実験園といった提案もあります。

その一方、協力事業を停滞させないため、一定面積(5ha程度)の苗圃を来春までに準備しないとはいけません。抜木、整地、井戸掘り、水路、管理棟、電力導入などを大急ぎですすめます。

そのために当面必要な資金・400万円の調達のため、緊急の寄付をお願いいたします。個人のばあい1口2千円で、できるだけ多くの口数のご協力をお願いいたします。団体のみなさんには可能な額のご協力をとくにお願いいたします。寄付にご協力いただいたかたの氏名(団体名)を真鍮板に刻んで管理棟に掲示いたします。また、緑の地球ネットワー

クは認定NPO法人であるため、この寄付金は所得税控除の対象になります。とりあえずの締め切りを2010年12月末といたします。

☆☆☆☆☆☆☆☆

愛称を募集します。これまでの私たちの拠点は、実験林場「カササギの森」、実験果樹園「かけはしの森」、自然植物園の「南天門植物園」のように、親しみやすく呼びやすい愛称をつけてきました。このたびの新拠点にも、みなさんからの提案を募りますので、よろしく願いいたします。



小老樹の抜木、整地にはすぐにもとりかかりたい

第16回会員総会の報告

JICA 草の根技術協力事業の終了時調査



6月12日、大阪市立総合生涯学習センター第2研修室にて、緑の地球ネットワーク第16回会員総会が開かれました。会員571名/団体のうち出席者数50名、書面による決議への参加225名、委任状提出85名、合計360名で総会が成立しました。

【議事】

2009年度事業・決算・監査報告とその承認、2010年度事業計画と予算の提案と承認、定款改定の提案と承認がお

こなわれました。

定款の変更については、昨年度の会員総会で承認された「会の活動とその種類について」の条項が、事務局の不手際によって大阪府の認証を得ることができず、あらためて必要書類(2011年度の事業計画と予算)をととのえ、今回の総会で承認の再確認をしました。

【懇親会】

場所を変えて食事とお酒をまじえた懇親会となりました。遠方からの参加者もまじえて28名が参加し、にぎやかに談笑を楽しみました。

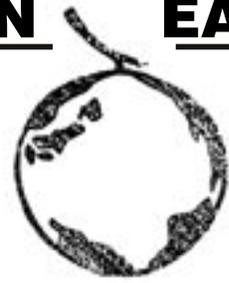
絵はがき『黄土高原の花』をどうぞ

今年の梅雨は、雨の降り方が変ですね。ゲリラ豪雨も心配です。そんな気遣いを絵はがきにしたためて、知人友人に届けませんか？ 暑中見舞いにもどうぞ。

絵はがき【黄土高原の花】(ご注文はGEN事務所まで)
8枚1組・300円(送料別途。5セット以上送料サービス)

中国の環境問題と日中の協力

武村正義さん講演抄録



会員総会にさきだっておこなわれた記念講演には60人が参加しました。ユーモアをまじえながらも、いろいろと考えさせられるお話でした。

【日本は100年もつか?】

時々こうした講演を頼まれて月5、6回くらいしゃべっておりますが、半分以上は政治ないしは政局のテーマです。今とくに、菅政権ができて、さきがけ政権といってもおかしくないぐらい旧さきがけのメンバーが入っております。「菅政権の光と影」というような題で1時間ぐらい喋るのがもっともうけます。でも、半分ぐらいは環境または地方自治の話をしろといわれて、政治よりはまじめにこのテーマのお話をさせていただいています。

環境問題の話をする時は、いつも司馬遼太郎先生の言葉を紹介します。20数年前、司馬さんと琵琶湖湖畔で対談をしたとき、「この琵琶湖はあと何年もちますか? 500年もちますか?」と聞かれました。私は思わず「いやもちません」と答えました。そうしたら司馬先生は「そうですね。私は100年ぐらいただと思いますよ」とおっしゃった。つづいて「京阪神も100年で終わります」と。私の解釈ですが、欲望にかまけて好き放題開発やら自然破壊を続けていたら、代表的な自然のひとつである琵琶湖を含めた日本の国土は100年もたないという意味だったのでしょう。そもそも土地を売ったり買ったりして儲けること自身が不健全だという認識をお持ちだったようです。山を削り海を埋め、人間の便利さのために好き勝手に自然を変形させて生きている、この戦後の日本の生き様そのものを厳しい批判の眼で眺めておられたのだと思います。

【環境問題の原点】

滋賀県知事をしていた1977年5月のある日、琵琶湖に赤潮が発生しました。現場まで走って大津の湖畔で車から降りたら、ぶうんと変な匂いが立ちこめて、見慣れた湖面がずうーっと向こうまで赤茶けていました。この色の変化と匂いの異常さで、琵琶湖に赤潮と

いう異常現象が起こったことを生々しく感じさせられました。私の琵琶湖問題の出発点です。

なぜ琵琶湖に赤潮が起こったのか。どうしたら克服できるのか。富栄養化、窒素、リンという栄養塩が非常に増えて赤潮が起こるということでした。なぜ、琵琶湖で窒素、リンが増えたか。まず、工場から出ていました。鈴鹿や比良の山から流れ出るリンもありました。お百姓さんが田畑に撒くリンもありました。しかし最大の犯人は、滋賀県の全家庭の台所で毎日使っている洗剤でした。当時は合成洗剤の中にリンが1割くらい入っていて、家庭廃水が原因の50%でした。一番大きい犯人は台所、滋賀県民全部が無意識にしても汚濁の犯人だということになってきました。

この頃から日本は公害問題の時代から環境問題の時代に変わっていきました。公害問題はある工場が出しているある有害物質で水や空気が汚れていると、汚濁の原因が特定できた。環境問題になると原因が不特定多数です。今の温暖化問題はまさにそうで、油や電気を使わない人はいませんから、皆直接間接に犯人です。琵琶湖問題はその先駆けで、全家庭に理由があり、行政が特定の工場をとっちめるのではすまない、我々の生き様が問われている生き様を変えなければ変わらないというテーマに直面いたしました。

そこで琵琶湖条例が誕生した。リンの入っている合成洗剤は、滋賀県、琵琶湖流域は、一切使ってはならない、売ってはならないという厳しい条例です。それで琵琶湖からリンの入った合成洗剤は消えました。琵琶湖のためにメーカーが無リン合成洗剤を開発したら、割合よく洗濯もできるし、あまり違いがなくなってきた、そのうち日本中が無リン合成洗剤に切り替わったんです。



【緑と水への関心】

国会議員になってから、どなたかに、遠山正瑛さんを紹介していただいた。鳥取大学の教授を退官されてから内蒙古へ入って木を植え始めた人です。私はたまたま江沢民前主席にお目にかかることになって、遠山さんとごいっしょしました。すると江沢民さんが遠山さんを見て、「アッ、内蒙古の愚公さんが来た」とおっしゃった。「愚公山を移す」の愚公です。あとから聞いたら、中国のテレビで遠山さんの特集番組が放送されて、江沢民さんもお覧になっていたんですね。日本よりも中国の方で偉い人とされています。遠山先生にお目にかかってから、緑の問題に関心もめました。その前から水の問題で、世界の湖や川の汚れについて見たり聞いたりしていました。水と緑は一体ですから、水の量を増やすのにも質を良くするためにも緑を涵養することが避けられないテーマです。そこで改めて緑化というテーマを正面から遠山先生に教えていただきました。内蒙古の恩格貝にも3、4回、黄河を渡って行きました。

【汗を流して木を植える】

その後、私は毎年夏には1回、中国の砂漠へ行って木を植えることを習いにしております。内蒙古のホルチン砂漠へ2回ほど行って、その次にうかがったのが大同です。GENが活動している現地に2回、数十名がお世話になりました。1人10本ぐらいスコップで掘って植えました。贅沢に暮らしている日

本人からすれば、たとえ半日、1時間でもスコップを握って土を掘って木を植えるとまた大事な所に戻ったような実感が湧いて皆これはいいと。日頃の生き様に対する反省がそういう感想をもたせるのかもしれない。

毎年40～60名お連れして、砂漠へ行って木を植えるとかいうことを繰り返しています。今は、銀川のモウソ砂漠へ8月に行っております。やがて大同へまた行きたいと思っています。

高見さんの『ぼくらの村にアンズが実った』にも書かれていたカササギの森とか環境林センターとか詳しく案内していただきまして、今度環境林センターが移ったんですね。機関紙で読ませていただきました。着実に、広範に、地域の自治体と協調されながら実績をあげていただいていることに敬意を表します。

【地球の緑が減っていく】

皆さんご承知のとおり、地球全体で緑が減っていく流れが止まりません。もともと地球の全面積の3割しか陸はありません。そのたった3割の陸のまた30%が緑です。地球全面積から見れば貴重な緑になってきている。最近の統計では、1年間に地球全体では1,290万haの木を人間が伐採しているそうです。これに対して毎年植えている面積は550万ha。昔、といっても10年ほど前は100万もなかった。最近ぐっと増えてきたのは中国です、退耕還林がいわれてちょうど10年ほどになりますね。

大木が切られるのと小さい木を植えるのと等価値ではありませんが、木を植え始めている。しかし引算をすると毎年730万ha、とくにアマゾンや東南アジアの熱帯雨林を中心として、どんどん減少を続けています。逆に砂漠はじわじわと地球全体で拡大してきています。飛行機でアフリカ横断してみると、緑なんかもうありませんよね。アメリカも、ロッキー山脈を中心としてやっぱり荒れ地です。南米もアマゾンの方はジャングルですが、太平洋側は半分砂漠のようになってしまっています。中央アジアから中近東、あるいは南ヨーロッパのギリシャ、イタリア、スペインも緑は乏しい。地球全体で緑

が人間の経済活動で伐採されている。中国は、最近の中国政府の発表を見ると20.36%ですね、五分の一しか緑がありません。世界はまだ30%ですからそれより悪いし、砂漠が28%だそうです。中国は国土が広いから緑のボリュームは世界で5番目ぐらいですが1人あたりになると144番で本当に緑の貧しい国ですね。

【深刻な水の問題】

水の量と質それから緑、こういう自然を構成する一番大事な要素の面から見れば極めて劣化しているといわざるをえません。13億も人が住んでいるという状況が最大の理由かもしれませんが。だいたい北中国はもう水がありませんね。毎年1m地下水位が下がっているという話を聞きましたがひどいですね。北京から大同へ行くまでの道で案内される官庁ダムもカラカラでした。おまけに黄河が、もう下流の方では水がない。一度見に行きましたが、河の堤防の両側に荒地が広がって白く塩を吹いてまして、耕作不能です。あの中国文明を培ってきた母なる黄河の水がなくなってきている、あっても量が減って、水質も悪くなっているだろうと思います。だから昨今は南水北調という大胆なことを始めて、3本も4本も運河をつくりはじめていますが、あれもすさまじい自然破壊にならないかと危惧しています。北中国全体で水という基本的な人間生存の条件が失われつつありますから、あの地域はもう遷都するか大胆な転換をしない限りは生き延びられないのではないかとさえ危惧しますね。

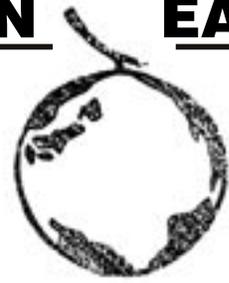
今年、私は無錫の江南大学へ行きましたが、太湖という中国で1、2の大きい湖があります。琵琶湖の何倍かある大きい湖ですが、案外浅いんです。1mぐらいしかないから、とても汚れやすい。その太湖で無錫を中心にアオコが異常発生しました。大騒ぎになって温家宝首相が行って、GDPや生活レベルや生産レベルが下がってもいいから、環境に取り組み、この水を守れと指示をしたそうです。それほど環境が悪化しているところがあちこち出てきた。隆々たる経済成長の陰に環境破壊という状



況が中国全土で進んでいる。中国人13億のうち3億人が水の安全性に不安を感じていて、さらに2億人が有害な水を飲んでいるというデータがあるそうで、それほど水の量と質両面で深刻な事態になってきております。

【これからの日中関係】

これからの日中関係を考える時に、我々日本人はどうしたら良いのかというテーマがあります。日本人は歴史認識ができていないと説教をうけてきました。日本という国は、あの戦争をきちんと総括しなかった。戦後すぐアメリカがやってきて占領して、東京軍事裁判を起こして、戦犯を決めて、処刑しちゃった。あれで日本人は戦争の反省はすんだと思っている。でもあれはアメリカがやった総括であって、日本人は、あれだけアジアで大事を起こしておきながらなんにも議論していない。いったい日本はあの戦争で何をやったのか。日中戦争でいったい中国人をどのくらい殺したのか。ある時、中国人に5000万人殺したといわれて、本当かよと思って勉強したんですが、客観的なデータはありません。南京の虐殺も、嘘だ、でっち上げだと言う人もいるし、中国の30万、40万が正しいという学者もいる。何万人かは殺したに違いないと思いますが、いったいどういう人をどういう状態で殺したのか解明できていません。日本人があの戦争で中国に与えた様々な、人を殺したり家を焼いたり等々を、きちんと認識していない。逆に、アメリカから原爆を落とされたとか、東京や大阪を爆撃されたことは



覚えている。戦争中のできごとに対する認識について韓国、中国との間に大きなギャップがある。

しかし、私は中国で講演すると言っていますが、あなたたちの言い分は分かったが、日本人の言い分としては、中国には戦後の日本に対する認識が無いのではないかと。戦後、新憲法を日本人が承認して、憲法九条に皆が賛成して、60何年間、憲法九条を守ってきた。日本人がいかにあの戦争を反省しているか、二度としてはいけないと皆が認識しているから、平和憲法が、連綿と今、日本で生きている。自衛隊は作りましたが、攻撃用の軍力は持っていない。核兵器も持っていません。そして、中国の経済に対してODAなどで何兆円も協力してきた。こういう戦後の日本の平和主義の生き様を、中国の大衆は知らない。そういうギャップを、こつこつと埋めていかなければいけません。その手段として、環境協力というテーマが存在するのではないかと、私は思っています。

【積極的な環境協力を】

無利子借款というODAを、中国で再開したらどうでしょう。もう経済が大きくなったから、借款でよい。環境事業にだけは無利子で融資する。中国政

府が、まじめに大規模な環境事業をするなら、日本は無利子借款で応援する。今は、ODAにそういう分類はありません。それをつくって、中国にかぎらず、環境に関して無利子借款のような第三の道を少し真剣に考えてもいいんじゃないかと思います。

日本が中国にもっと大胆に環境協力を展開していくことが、向こうにも歓迎されるし、黄砂とか光化学スモッグとか海の汚染という問題を見ると、日本にもプラスですから。中国の環境汚染を少しでも減らし、環境を回復させるために、人や物や技術の協力を進めていくべきではないか。ここから新しい日中関係を開いていくべきではないか。

恩格貝へ木を植えてきた帰りに江沢民前主席に会って、砂漠に木を植えてきた話をしながら、提案したことがあります。すぐには難しいですが、将来中国人民解放軍と日本の自衛隊が、鉄砲や戦車を持たないで、この内蒙古の砂漠へどンドン入って、緑化事業をやったらどうですか。日中友好の象徴的な事業ですし、どうせ戦争しないのですから、暇とは言わなかったけれど。ボランティアが行って10本か20本か植えて、それなりに納得して帰ってくる

んだけど、それでも、あの広大な砂漠をみているとね、はかないですね。あの広大な砂漠の面積を見て、着実に緑を回復していくためには、唐突ではありますが、戦争をしていない両方の軍隊が、何十万という単位で、武器以外のものを総動員して大々的に緑化活動をやってくれたら、ずいぶんと成果があがるだろうなど、今でもそう思っています。江沢民さんは笑いながら「それはすばらしい提案です」と両手を挙げましたが、それで終わりました。帰ってきて、日本の防衛庁長官にあって、こういうきたぞ、ちょっと考えてくれといったら、それ、いい話ですな。自衛隊法第二条、自衛隊の目的条項に、中国の緑化というのをいれないといけませんなど。

それまでは、黙々こつこつと、多くの日本人が、そういうことで汗を流すことに意味があると思いますし、高見さんのように、ドンと入り込んで、堅実に貢献されているということに、本当に敬意を表したいと思います。

第2回運営懇談会開催のお知らせ・新メンバー募集

会員総会は活動報告のイメージがよくなり、未来のことをいろいろ語り合う場がほしいとはじめた運営懇談会。昨年の第1回運営懇談会でできた課題は、動き出したもの、動き出したけれど保留になっているもの、手がついていないもの、いろいろあります。それらの評価、再検討も必要ですし、環境林センターに変わる新拠点の位置づけ、全体計画にもみなさんのアイデアをだしてもらいたいです。

昨年は大阪37人、東京30人の参加があり積極的に意見を出していただきましたが、2回目の開催にあたり、新たな参加者を歓迎いたします。またメーリングリストにより意見交換ができますので、関西・関東以外の方もぜひどうぞ！

日程は次のとおり。次号で再度、くわしくご案内します。

【大阪会場】

●10月2日(土)13時30分～16時30分(予定)

●大阪市立総合生涯学習センター(大阪駅前第2ビル5階)

【東京会場】

●10月9日(土)15時～18時(予定)

●立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室(各線「池袋」駅)

(運営懇談会の前に、月例会があります)

GEN 自然と親しむ会

無煙炭化器で炭を作ってみよう

再挑戦 in 初谷溪谷

5月23日に予定していたせせらぎ広

場での「無煙炭化器で炭を作ってみよう」が雨のため中止となったので、再度計画をたてました。暑くなるので少し場所を変えて初谷溪谷です。大阪府の「みどりの百選」に選ばれています。駅から約20-30分ほどです。溪谷に入ってからよい場所を探して少し歩きます。

●日時：7月24日(土)10時から15時ぐらいまで

●場所：大阪府豊能町初谷溪谷

●集合：能勢電鉄「妙見口」駅前に10時

●参加費：200円(保険料を含む)

●持ち物：作業のできる服装、軍手、弁当、飲み物、雨具、イモ類(焼き芋に挑戦)

●申込み：7月21日(水)までにGEN事務所へ

★雨天の場合は25日(日)に順延

この体験を伝えていきたい

春のツアー報告その2

先号にひきつづき、4月に大同を訪れた労働組合のツアーの報告です。東北電力総連(22名、4/13~20)、自治労大阪府本部(26名、4/17~21)のツアー参加者の報告(一部抜粋)を紹介します。

植樹、交流、これまでの成果を確認

山内 真(東日本興業労働組合)

植林活動は、例年にない寒さから活動場所を変更せざるをえなくなったり、渋滞で到着が遅れて作業がなくなったり、突然の雪により作業を途中で切り上げたり、アクシデントに見舞われました。

それでも2日間で1,000本以上のアブラマツの苗木を植林しました。固い土壌で用意された苗木がなくなるまで続く作業は、厳しいと感じた人もいたかと思いますが、みんな一生懸命取り組みました。使命を果たそうとする隊員の姿は、現地の方や随行いただいたGENのスタッフの方にも認めていただいたものと自負しております。

植林作業の途中では、諸先輩たちが植えたマツの木がしっかり育っているところも見学しました。年間降水量は少なくしかも夏に集中し、春には風が強く、蒔いた種も飛んでしまう。そんな環境でもちゃんと根付いているマツ、「緑の協力隊」の成果を確認できました。

農村の人たちや現地の子もたちとの交流では、まず学校を訪問しました。歌・踊り・劇そしてゲームを見せてくれた子どもたちは本当に可愛い。現地の遊びや縄跳び・筆談で交流を深めました。また、農家で昼食を

御馳走になりました。作物が育ちづらい環境で収穫や収入も十分ではない。生活は裕福でない聞いていましたが、招かれた民家ではテーブルいっぱい用意され、なくなりそうになると料理がすぐに追加されるおもてなしで、本当に歓迎されているんだと有難く思いました。

7泊8日の全行程を、明るく楽しく終えることができました。

初めて参加した「緑の協力隊」。現地を目で見て肌で感じたこと、隊員と共に目的を達成し絆を深められたことは一生の思い出です。今後は多くの組合員にこの体験と活動の必要性を伝えていきたいと思えます。



「緑化事業のこれから」

白井 康昭(箕面市水道労働組合)

「パスポートの有効期限切れ」、「事前学習会も参加できず」、「出発日に参加者と初顔合わせ」このような状況で私の第5回緑化協力がスタートしました。

山西省大同市到着。猛烈な都市化の波。道路があちこちで掘り起こされ、街区整理に伴う高層住居の建設ラッシュ。まるで、街全体がもの凄いエネ

ルギーに突き動かされている様に感じました。

中華育孤学校では小学生から高校生の子もたちと交流。また、呉城村小学校でも交流を行い、一緒に遊び、笑顔を見ながら、何故か自分の娘2人の姿と重ね合わせ、両方の子どもたちの未来を少しの間、ぼんやりと考えました。

アンズの植林作業とカササギの森での記念植樹。現地スタッフや先生方から説明を受ける。「17年前から協力事業をおこなっていて、その結果が目前にある景色です」と聞いた瞬間、しばらくその時間の経過に言葉がでませんでした。

1995年から建設が始まった地球環境林センターは、このツアー

の最中に、大同市がこの土地に植物公園を建設するという理由で、移転を余儀なくされました。引き渡し当日には、現地スタッフに混乱はなく、粛々と引き渡しが行われたと聞かされ、複雑な想いになりました。

黄土高原で緑化事業が始まり、現在ではそれが実を結び、中国においても、それらがいくつかのモデルケースになるにまで至っています。日本のスタッフ、現地スタッフ、それらに賛同し、自分たちの生活を少しでも向上させようとする現地の人々の想い。そのどれもが欠けても、うまくは決していかないだろうと、痛切に感じました。

帰国し、この文章を書きながらも、「自分は、現地で何ができたんだろうか」と自問自答しています。今後もこの体験を色褪せさせることのないように……。



GEN 関東 brunch 宇久須合宿報告

中村 英 (GEN 会員)

炭を焼いて、村おこしイベントに参加して、海と山の素晴らしい自然を楽しむという欲張りな合宿が実施されました。清野徹さんと浅賀石根さんをはじめとする『宇久須まちづくり協議会・スローライフ部会』のみなさんにたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

いま GEN で話題になっている「無煙炭化器」を実際に使ってみようという試みが5月15～16日、GEN 関東 brunch の上田信先生等の手で計画され、3歳から72歳まで26人が参加してきました。



無煙炭化器で炭焼き中

場所は関東 brunch の藤原國雄さんがお住まいの静岡県西伊豆町の宇久須地区で、ご多分に漏れず65歳以上の人口が40%を超えているところです。

「無煙炭化器」は、まったく単純な構造で、ステンレス製の円錐をすばっと途中で輪切りにしただけのものでした。この円錐の角度が特許なのだそうで、外側から対流空気が入る一方、底部では酸欠炭化が進み、短時間で炭ができるのだそうです。地面の上にこの炭化器を置いて、中に廃材などを放り込んで燃やせば、たしかに炭が（消し炭に近いですが）ができるのです。

無煙といいますが、よほど乾燥した木でないとはやはりかなりの煙が発生し、街中での使用は難しいけれどちょっと



炭を鋤き込んだ休耕田にアシタバなどを植える

した農地あるいは空き地があれば使用は充分可能だと思いました。

夜には地元公民館で、GEN の小川眞顧問の「なぜ炭は植物の生育に効くのか」についての講演があり、定員80人の会場があふれるほどの人気で、そのあと地元の人との交流会もありました。放置されている間伐材を、これで炭にし、休耕田を借りて土壤に鋤き込み、作物を植え、手入れ、また収穫にすれば、町おこしとしてのモデルにもなるのではないかと思いました。今後の展開が楽しみです。

GEN 関東 brunch 今後の予定

関東 brunch の月例会のご案内です。

毎回、土曜日の15時から18時ごろ、立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室でおこないます。

参加費無料、事前申込み不要です。GEN 会員以外の方もご参加いただけます。月例会のあとに、懇親会をおこないます。

【7月】

7月17日(土)『木が枯れる。それでも植えよう』小川眞さん (GEN 顧問)

世界に広がる樹木の枯死と森林の衰退を紹介し、それでも植えなければならない理由と樹木の扱い方を話します。

17時ごろから、夏のワーキングツアー説明会をおこないます。こちらにもご参加ください。

【8月】お休み

【9月】

9月25日(土)『夏のワーキングツアー報告会(予定)』

【10月】※13時～15時

10月9日(土)『東南アジア・熱帯多雨林チャンプルー』藤沼潤一さん (GEN 世話人・北海道大学大学院生)

マレーシア・インドネシアでのフィールドワークで見聞きしたことを中心に、熱帯多雨林の概要やおもしろ話、環境問題話を紹介したいと思います。

より多くの「へえ」を出せるように(でも事実には忠実に)、話をしたいと思いません。

月例会にひきつづき、15時から GEN 運営懇談会をおこないます。

【11月】

11月13日(土)『GEN の活動の近況』高見邦雄 (GEN 事務局長)



会員総会に寄せられたメッセージの一部を紹介します。

○日頃の地道な活動に敬意を表します。今後の課題 (1) 植栽後の保育 (下刈、除間伐)、事業の定着と中国の人々への伝承。(2) 用材の活用対策の推進 (建築、パルプ、炭化材、家具等々) (3) 山火事防止、鳥獣被害防止対策 (植栽林) と啓蒙。(4) 後継者の育成。(会と中国の実行体制) (5) 目標達成が見込まれば (軌道にのれば)、友好交流は存続し、会の発展的解消も考慮する。(A.T) ○今年も残念ながら欠席します。盛会をお祈りいたします。相変わらず、雑草と灌木の生命力に圧倒されながら、田舎ぐらしをしております。でも今春は遅霜ですももも桃も、あんずもダメ。大同の春も寒かったらしいですね。現地の方の苦勞が(次ページへつづく)



第35期
ナチュラリスト入門講座

身近な里山で野生動物の足跡や食痕・フンなどを観察し、その暮らしぶりから自然を学ぶ講座です。

- 定員：30名（先着順・満18歳以上）
- 受講料：一般＝10,000円 公開講座は各500円
- 申込み：住所、氏名、年齢、性別、電話番号、大阪自然環境保全協会会員の有無を記入して、はがき、FAX、Eメールで下記まで。
- 問合せ：(社)大阪自然環境保全協会
NOB・BOX (〒530-0041 大阪市北区天神1-9-13 ハイム天神橋202
tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103
E-mail : NOB@nature.or.jp)
- スケジュール
- 9月17日(金) オリエンテーション / 室内
- 10月1日(金) 何でも記録しよう / 室内
- 10月3日(日) フィールドワーク(1) 豊能町 / 野外
- 10月8日(金) 公開講座・大阪の野生動物って? / 室内
- 10月23～24日(土日) フィールドワーク(2) 能勢町 / 野外

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 11月5日(金) 動物の暮らしと里山 / 室内
- 11月19日(金) ワイルドライフ・マネジメント / 室内
- 11月28日(日) フィールドワーク(3) 河内長野市 / 野外
- 12月4日(土) 野生動物の食生活 / 大阪市立自然史博物館
- 12月10日(金) 野生動物と人との関係 / 室内
- 12月18日(土) 公開講座・フィールドワーク(4) 奈良公園 / 野外
- 1月30日(日) フィールドワーク(5) 池田市 / 野外
- 2月5日(土) フィールドワーク(6) 箕面市 / 野外
- 3月5～6日(土日) フィールドワーク(7) 能勢町 / 野外
- 3月11日(金) 修了式(まとめと懇親会)
- 4月10・17日(日) 第29回里山一斉調査(大阪府下+a、13コースで実施)

(前ページからつづく)しのばれます。(I.Y)
○環境林センターが閉鎖!!と見て大変びっくりしましたが、会報を読んでそ

ういうことか…ととても安心しました。長年続けたことが確実に理解され実っていることを実感します。会費だけの幽霊会員ですが、これからも応援しています!! がんばってくださいね。(S.J)
○物理的な環境や手で触れるものを変えることに比べ、人の気持ちや考えを変えていくことはとても難しいことです。大同市の人々が、これから社会や生活の大きな変化に向かっていくなかで、その礎に、樹木を大切にし、緑と共生していくことがしっかりとあるということは、GENの最大の功績だと思います。ご盛會を祈ります。(M.R)
○会報を楽しみにさせていただいております。ところで、毎回ご送付いただいております会報や書類をpdfファイルでのご送信に(それでいいという会員については)切り替えていただいはいかがでしょうか?(K.M)
◆今号は無理でしたが、やってみたいですね!
○体験して感じて考えたことは、自分にとって持続性と発展性があるように思えます。15年前高見さんに同行していただいたことが、折にふれ浮かび上がって日々の行動に反映しています。今後とも末永く持続するよう支援申し上げます。(N.K)